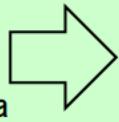


# ICT等の技術を活用した、なすの高単収・高品質生産 ～武藤 兼利 氏（愛知県一宮市）～

## 経営体の概要

昭和50年  
基幹作物・経営面積  
冬春なす(施設)40a、水稻60a



平成29年  
基幹作物・経営面積  
冬春なす(施設)20a、  
夏秋なす(露地)10a、  
水稻1ha



冬春なす

## 取組の経緯と経営転換のポイント等

昭和38～39年度に団体営土地改良事業が実施された。武藤氏は昭和50年に就農し、昭和55年に建設されたハウス団地で、なすの促成栽培を開始した。

これまで、受粉昆虫（みつばち）の導入や炭酸ガス施用により収量の向上に取り組んでいたが、加えて、3年前からICTによる環境モニタリング装置「あぐりログ」を導入し、ハウス内環境をスマホで確認することにより、適時に適切な環境設定ができるようになり、収量・品質の向上につながっている。

## 営農改善のポイント

### ①単収向上の取組

みつばちの導入による省力化、炭酸ガス発生装置の導入により、収量は導入前の15 t /10aから18t/10aと向上した。

単価は、40年前も現在もほぼ変わらない中、高単収・高品質ななす生産により収益確保を図っている。



武藤兼利氏



あぐりログ画面



あぐりログのデータ  
(炭酸ガス濃度推移)

### ②ICTを活用した生産性の向上

3年前に、数分おきに、温度、湿度、炭酸ガス濃度等のハウス内環境を測定しスマホ等で随時確認できる、ICT(情報通信技術)「あぐりログ」を、武藤氏をはじめJA愛知西促成なす協議会員数名が導入し、その後、導入が進み平成29年には15台が導入された。

ハウス環境の変化に適時に対応出来るようになったことに加え、各会員のデータが相互に共有できるようになり、環境変化の要因を分析し、効率的な栽培技術の確立に向け、産地として取り組んでいる。

### ③担い手の育成・確保

一宮市、稲沢市、JA愛知西が共同で開校している「はつらつ農業塾」の研修生受け入れを行っており、研修生7名が就農している。新規就農者はハウスの確保が難しいことから、武藤氏が離農者のハウスを新規就農者に紹介する取組も行った。

## 事業概要

事業種：国営総合農地防災事業

関係市町：岐阜県岐阜市外2市2町及び  
愛知県名古屋市外12市5町

受益面積：10,139ha

事業期間：平成10年～平成34年

事業目的：農業用排水施設の機能回復

主要工事：頭首工改修1箇所 用水路改修 L=32.0km  
排水路改修 L=27.3km

### 位置図



### <問い合わせ先>

東海農政局  
農村振興部農地整備課  
営農指導係  
電話：052-223-4638

(平成29年度調査時点)